



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.68

Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2017. 冬・春

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

第53回企画展

尾瀬を科学する



2017. 3. 18 土 ~ 5. 14 日

企画展イベント (3~5月)

実技付講演会 『新井幸人尾瀬を撮る』

- 日時：平成29年3月19日(日) 13時30分~15時30分
- 場所：当館 学習室
- 講師：新井幸人(写真家)
- 定員：100名(先着順)
- 参加費：無料

プロカメラマン・新井幸人氏に写真や動画をもとに、尾瀬の魅力や尾瀬を美しく撮るテクニック、そして撮影の裏話を、実技を交えて語っていただきます。

講演会 『尾瀬ガイドンス』

- 日時：平成29年4月16日(日) 13時30分~15時00分
- 場所：当館 学習室
- 講師：尾瀬保護財団職員
- 定員：100名(先着順)
- 参加費：無料

これから尾瀬に行かれる方、尾瀬に興味のある方を対象に尾瀬のエキスパート・尾瀬保護財団の職員が尾瀬の歩き方、みどころを紹介します。

講演会 『尾瀬保護専門委員リレー講演会』

- 日時：平成29年5月7日(日) 13時30分~15時30分
- 場所：当館 学習室
- 講師：片野光一、鈴木伸一、吉井広始
(群馬県尾瀬保護専門委員)
- 定員：100名(先着順) ■参加費：無料

尾瀬の植生、ミズゴケと湿原について小講演会のあと、尾瀬の植生復元についての群馬県尾瀬保護専門委員によるミニディスカッションを行います。尾瀬の植生を理解するための研究と傷ついた植生の復元を最新の知見から紹介し、議論します。

サイエンスサタデー

『尾瀬の花 ~ミズバショウをつくるう~』

- 日時：平成29年5月6・13・20・27日(土)
14時00分~15時00分
- 講師：博物館職員・ボランティア ■場所：実験室
- 定員：各回30人
- 対象：小学生向け(小学3年生以下は保護者と一緒に参加)
- 参加費：無料
- 申込：当日会場で直接申込(受付：13時30分~先着順)

☎サイエンスサタデーを除き電話での予約申込みが必要です(1ヶ月前の午前9時30分から)

第53回企画展

「尾瀬を科学する」

尾瀬は貴重な自然が残された地域であると言われています。明治、大正期の学者たちによって次々に尾瀬で貴重な生物が発見され、昭和以降に行われた3度の学術調査の結果、尾瀬のなり立ちや生物相、生態系が次第に解明され、その特異さと貴重さが改めて認識されました。生態系の貴重さや景観の美しさを根拠に、尾瀬の自然を守るための闘いが古くから繰り広げられ、尾瀬は日本の自然保護活動の原点とされています。

一方で戦後増え続けた入山者によって湿原や周囲の山の植生が破壊され、その復元のための努力は今も行われています。加えて1990年代から侵入したシカによって尾瀬では湿原の裸地化や特定の植物の減少や異常繁茂が問題になっています。また、気候変動によって集中豪雨や少雪など異常な現象がたびたび記録されるようになり、今後の変化も含めて生態系への影響が懸念されています。生態系の破壊や変化に対しては科学的な調査研究に基づく客観的な予測が必要とされ、尾瀬の自然保護に対してもそれは例外ではありません。

この企画展では過去に国や地元自治体などで行わ

れてきた科学的な調査研究の成果を紹介するとともに、尾瀬の自然保護のための研究、シカの侵入など近年の尾瀬の課題を紹介します。また、今年から最新の技術と知見を採り入れ、第4次尾瀬総合学術調査が始まります。企画展「尾瀬を科学する」の中でも調査の概要と成果の活用法を紹介します。

(学芸係・大森 威宏)



シカの侵入によりミツガシワが掘り返された湿原
(尾瀬ヶ原研究見本園)

自然のコラム きのこに生えるきのこ「ヤグラタケ」

普段目にするきのこといえば、主に木や落ち葉の上、また地上から生えているイメージがありますが、今回紹介するヤグラタケは北半球を中心に広く生息する小型のきのこで、少し珍しい特徴のきのこです。その特徴とは、ヤグラタケは木や落ち葉などではなく、なんときのこから生えるということです。しか

もその基質となるきのこは、主にクロハツヤツチカブリなどの成熟したきのこの子実体上で、不思議なことに自然界ではベニタケ科のきのこにしか生育しません¹⁾。夏から秋に野山で見つけた小型の白いきのこをよく観察すると、ひょっとしたらその下にはきのこがあるかもしれません。(学芸係 佐藤 利正)



写真1. クロハツ上に生育するヤグラタケ



写真2. ヤグラタケの乾燥標本

参考文献

1) きのこ. 本郷次雄ら監修・解説. 山と溪谷社. 2006年.

20年ぶり？ ホラアナゴマオカチグサの発見

ホラアナゴマオカチグサは大きさが2mmもないような小さなカタツムリです。石灰岩と暗闇を好み、洞穴内部で発見される生物です。群馬県内では東部と南西部の一部でしか生息が確認されていません。このカタツムリを当館の学術調査を兼ねたイベント（大人の自然史倶楽部）活動の中で発見しました。そして、今回、生きているホラアナゴマオカチグサも発見できたので、ここで報告します。

現在、当館におけるカタツムリの調査活動は、空っぽになった殻（死殻）を集め、殻の特徴からどんな種が生きていたのかを推定しています。カタツムリは渦巻き状の殻を背負っています。危険を感じると内部へ引っ込むことはできますが、殻を脱ぎ捨てて逃げることはできません。カタツムリの空っぽの殻だけでは移動することはなく数年で土になります。このため、空っぽの殻の発見でも生きていた証拠となるのです。

今回の調査活動では、過去に報告があった場所へ行き、肉眼でカタツムリの死殻を探しました。なかなか見つからない中、しばらくして、参加者の一人が死殻を見つけました。とても小さい貝のため、その小ささに参加者全員がびっくりしたほどでした。現地で見つけることが難しいため、死殻があった場所やここにいるだろうと思われる場所の泥や砂を少し集め、博物館へ持ち帰りました。泥や砂の中から顕微鏡を使って小さな貝を探しました。そのとき、生きているホラアナゴマオカチグサを見つけました（動画サイト参照）。科学的な表現ではありませんが、尊い、いとおしい感情がわき上がりました。しかし、感動していても顕微鏡の下はカタツムリが好む環境ではありません。次第に乾燥し、死んでしまうことが予想されました。このように死んでしまうとカビが生えたり溶けてしまったりするので、かわいそう

でしたが100%アルコールに入れ標本としました。この状態ならば、後で遺伝子解析を行い、さらなる研究につなげることも可能となります。

群馬県内でのホラアナゴマオカチグサは1970年に高橋茂氏（故人）により初めて報告され、1996年に当館設立にあわせて行われた県内の動植物の資料調査活動の中でも発見報告されました。しかし、その後、神流町の2カ所の生息地では、周囲の環境変化のためか再発見できず、死滅している可能性すらありました。今回の発見は、実に20年ぶりの吉報となるのかもしれませんが（詳細は調査中）。ホラアナゴマオカチグサは全国の多くの地域で絶滅危惧種として扱われ、群馬県内では絶滅危惧Ⅰ類に分類されており、この段階が悪い方へ進むと次は「絶滅」となります。博物館での各種の自然環境調査は、「絶滅危惧種が増える＝自然環境が変化している」、「外来種が増える＝これまでの自然環境が壊れる可能性がある」ということを見つける手がかりとなるため、県内のあちこちで地道な調査活動を続けていきます。今後ともご理解や温かいご支援をお願いします。また、ホラアナゴマオカチグサを守る観点から、発見場所の情報は伏せたことをご了承ください。

（学芸係 茂木 誠）

ホラアナゴマオカチグサの動画は以下の場所でご覧いただけます。

- 当館フェイスブック（12月20日公開）
- インターネットアドレス
<https://www.facebook.com/1393846234272248/videos/1752576311732570/>

- QRコード



写真1



写真2

下仁田ジオパークシリーズ

荒船山

軍艦に例えられるその山体は、西上州の夕暮れに存在感のあるシルエットとして浮かびあがります。遠くから眺めると平らに見える山体は、「鱧岩」と名付けられていて、触先にある展望台からは遠く北アルプスの山々まで見通せる絶景が広がっています。しかも、荒船不動の駐車場からたったの1時間半ほどでこの絶景ポイントまでたどり着くことができるのです！絶景も良いですが、甘楽・富岡の丘の上からシルエットとして荒船山をはじめとする西上州の山々を見るのも一興です。

注意：柵のない鱧岩の展望台から崖の下をのぞくことは絶対にやめましょう。『自分は大丈夫』と思う心が命取りになります。下をのぞき込もうとした多くの方がここで墜落しています。鱧岩は、鉛直に岩石の割れ目が発達していて、山体のへりが非常に崩れやすいのです。へりから離れた場所で絶景をゆっくり味わいましょう。
(学芸係 菅原 久誠)

下仁田ジオパークウェブサイト <http://www.shimonita-geopark.jp/>

- 登り口までのアクセス 車：上信自動車道下仁田インターから荒船不動駐車場まで約38分
- 登り口から鱧岩展望台までのアクセス 徒歩約1時間30分



図1 甘楽町から荒船山を望む



図2 切り立つ鱧岩

ファミリー自然観察会

自然史博物館では、群馬県の豊かな自然を広く多くの方々に知っていただくため、博物館周辺や県内各地を会場としてその地域の特徴的な自然をテーマにした「ファミリー自然観察会」を年5回開催しています。今年度は、高崎市吉井町鏡川河川敷での「化石さがしに挑戦しよう」、甘楽町琴平山公園周辺での「水の中の生き物を調べよう」、下仁田ジオパークでの「川原の石を調べよう」、下仁田町神津牧場での「輝く昆虫、オオセンチコガネを探そう」、前橋市大室公園での「水辺の鳥を観察しよう」を実施しました。

ファミリー自然観察会の大きな特徴は、“ファミリー”と呼ばれるとおり、ご家族皆さんで自然に親しめる機会を提供した観察会という点です。「見て」・「触れて」といった五感を生かした



体験的な活動や小中学生の自由研究の支援となる体験内容は、小さなお子さんから、大人まで広く好評をいただいています。

来年度も、ご家族皆さんで群馬の豊かな自然に触れ合える素敵な観察会を企画しております。ファミリー自然観察会の詳しいお知らせは、イベントガイドや博物館HPでご覧いただけます。スタッフ一同、皆様と一緒に観察会ができることを心待ちにしております。
(教育普及係 静野 聡)



利用案内

- 開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
- 観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	510円	300円
第53回企画展開催時 (H29.3.18～5.14)	610円 (団体割引20名以上480円)	300円 (団体割引20名以上240円)

- ※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。
- ※有料者20名以上は団体料金で2割引となります。

群馬県立自然史博物館だより Demeter No.68

編集・発行 群馬県立自然史博物館
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。